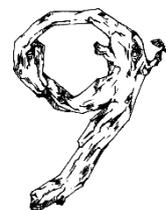


もりり 北の森林 国有林

写真：十勝岳連峰 三峰山（さんぼうざん）

今月のトピック

- ・道産木材の高付加価値化と
林地未利用材の有効活用の推進



2019
No. 45



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



道産木材の高付加価値化と 林地未利用材の有効活用の推進

資源活用第一課

はじめに

北海道森林管理局では、森林の有する公益的機能の維持増進を図るとともに、併せて地域における林産物を持続的かつ計画的に供給するなどの取組を進めています。

とりわけ、平成30年度より、多様で健全な森林づくりを推進するため、天然力を活用した森林づくり及び森林整備の省力化に取り組むとともに、道産材の安定供給と高付加価値化に取り組んでいます。

また、森林資源の有効利用を図るために「末木枝条」の活用を推進することが必要なことから、木質バイオマス資源として供給し、森林資源の「カスケード利用」(※1)を推進しています。

(※1)カスケード利用

木材利用の理想的な形とされておき、付加価値の高いも

のから低いものへそれぞれの質に応じて順番に利用することを指す。製品の製造過程で発生した副産物や廃棄されたものをエネルギー利用するという順序立てのこと。

今年度の販売予定量と国産材供給調整検討委員会について

今年度に北海道国有林から供給する木材はトドマツ、カラマツの針葉樹を中心に、立木によるものが約83万立方メートル(対前年比一〇六%)、素材(丸太)によるものが約68万立方メートル(対前年比一〇六%)となつています。

また、国産材を政策的に供給し得る国有林の優位性を活かし、地域の木材需要が急激に変動した場合に供給調整機能を発揮する目的で、四半期毎に「北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を開催して

います。



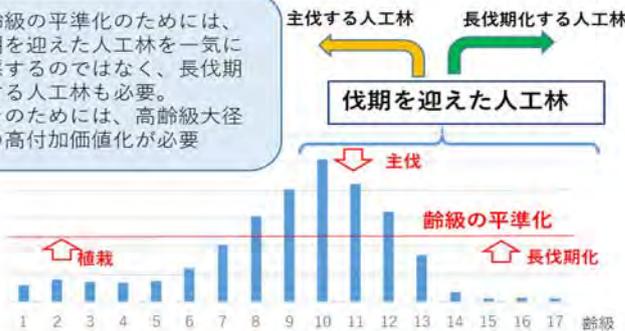
国有林材供給調整検討委員会

この委員会では、学識経験者や林業、木材業界の団体、事業者等の外部有識者等が構成メンバーとなり、地域の木材の価格や需要の動向を的確に把握・分析し、国有林からの木材の供給量や供給時期の調整が必要なのかどうかの検討等を行っています。

この委員会の検討結果を踏まえ、国有林材の安定供給に努めるとともに、検討内容をホームページで公表し、木材供

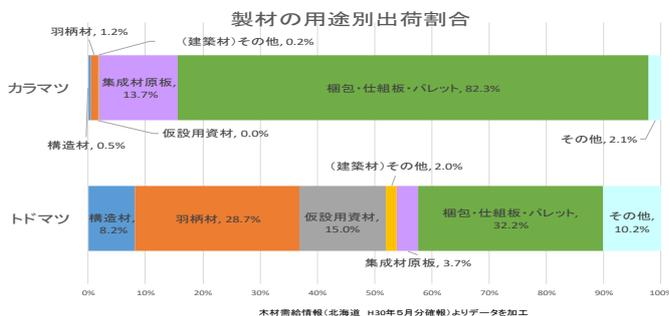
人工林の齢級平準化に向けて

- ・ 齢級の平準化のためには、伐期を迎えた人工林を一気に伐採するのではなく、長伐期化する人工林も必要。
- ・ そのためには、高齢級大径材の高付加価値化が必要



北海道の人工林齢級別面積

注) 齢級とは、人工林の苗木が植えられてから、1~5年生を1齢級、6~10年生を2齢級・・・としたまとまり



道産木材の高付加価値化
道内の人工林は、釣鐘型のいびつな齢級構成となっているのが現状です。

給等にかかる情報を発信しています。

これまでの丸太供給は、中小径木が主体で、製材利用の大半は梱包・パレット、建設用資材等が中心となっております。建築材での利用は半分以下となっております。このような現状の中、人工林の高齢級化に伴

って、今後は大径材の供給が増えることが見込まれ、また、人工林の長伐期化を進めるためにも高付加価値化を図ることが必要となります。

このため北海道森林管理局では、今年度より安定供給システム（※１）による販売で、一定の径級の良材を主体とした原木を、「建築材利用」と「エンドユーザーまでのサプライチェーンの構築」を目的として供給し、トドマツやカラマツといった道産木材の高付加価値化を推進することとしています。



安定供給システムによる販売立木

また、公募時においては建築材等への利用を

要件としていることから、協定者が決定した後には川上、川中、川下との協定・連携を持った体制となることが期待されることとします。

（※２）安定供給システム
木材需要者と事前に国有林材の安定供給の協定を締結し、丸太等を直接安定的に供給する販売方法。地域の林業・木材産業の活性化や新たな需要拡大に貢献できるよう推進しています。

林地未利用材の有効活用の推進

製品生産事業（森林整備と丸太の生産）で伐採に伴って発生する末木枝条は、集積の非効率さや集積コスト等により、その利用は進んでいないのが現状でした。



バイオマス資源として供給する末木枝条

このため今年度からは、製品生産事業で発生する末木枝条を全ての発注現場において事業実行と併せて販売することにより、事業実行中に受注者等が同時進行で集荷が可能となるようにしました。



移動式チッパーで末木枝条をチップ化

これにより、これまで十分な利用がなされてこなかった「末木枝条」を木質バイオマス資源として供給する「森林資源のカスケード利用」が推進されるとともに、林地内の末木枝条の有効活用が進むことにより、需要サイドの原料の確保や地拵えの省力化はもちろん、野鼠被害拡大防止にも繋がるものと期待しています。

10月は「木づかい推進月間」です

毎年10月は「木づかい推進月間」です（10月8日は「十と八」で「木」の日）。
木材を利用することの意義を広め、国産材利用を拡大していくための国民運動として、「木づかい運動」を平成17年度から展開しています。

木材を使うことは、森林とつながっています。木材を使うことは、「伐って、使って、植えて、育てる」という人工林のサイクルの一部。二酸化炭素の吸収や国土を災害から守るといった森林の持つ多くの働きを発揮させるためにも、木材を使って森を育てることは大切なことです。

木材を使うことは、環境にも、暮らしにも、いいことがあります。
木は二酸化炭素を吸収し酸素を放出して、炭素を体内に蓄え、成長します。
木材には、室内の湿度を調節する効果、そして香りによるリラックス効果など、色々な働きがあります。

木を「つかい」、山や森林、生活や環境へ「気づかい」。ぜひ、身近なところから「木づかい」に取り組んでみませんか？



地域課題の解決に向けた取組

低コストで効率的な造林作業の普及

日高南部森林管理署

はじめに

当署は、北海道の中央南西部に位置し、新冠町、新ひだか町、浦河町、えりも町の4町に所在する国有林約13万ヘクタールを管轄しています。

管内には、急峻な日高山脈が南北に走り、幌尻岳、ペテガリ岳、神威岳など1500メートルを超える高峰が連なり、日高山脈襟裳国立公園に指定されるなど観光資源にも恵まれており、登山などの森林レクリエーション等で多くの人々に利用されています。

また、日高山脈森林生態系保護地域など貴重な森林を有しています。



登山者の憧れペテガリ岳

管内の森林のうち人工林は、国有林と民有林のほとんどが主伐期を迎えており、木材資源の有効利用と同時に、伐採後の計画的な再造林の取組が必要となっています。

また、林業の成長産業化に資するため、民有林においても造林等の森林整備経費の縮減に向けた取組を進めていくことが必要なことから、低コストで効率的な作業を目指し取り組んでいます。

当署のこれまでの取組

☆国有林をフィールドに民有林関係者を招き、植付作業の効率化・低コスト化に向け、コンテナ苗の植栽体験と具体的な事例紹介を行っています。

☆コンテナ苗に関するメリット・デメリット、コンテナ苗製造技術の見える化等の情報共有を図るため、勉強会を日高振興局森林室と連携して実施し、併せてコンテナ苗等に関するアンケート調査を行い活用を普及に取り組んでいます。



オーガによるコンテナ苗の植栽体験

地拵（枝条の存置）による造林経費縮減

今年度は、伐採から地拵までの一貫作業の中で、特に伐採後の造林経費の縮減に向け、地拵方法に視点をあて、無地拵をベースとした経費削減に取り組み、データの収集を行います。

具体的には、次の内容を検討するために、プロットの設定などを予定しています。

- ① 伐採後の枝条を整理せず存置して地拵にかかると経費の削減、② 低密度植栽（ヘクタール1500/本）に

よる苗木代と植付経費の縮減、③ 存置する枝条を考慮した採掘機の活用、④ コンテナ苗の利用、⑤ 下刈り作業の削減の可能性を模索するため、枝条を存置したところによる下層植生の繁茂状況の調査



枝条の存置による植栽（イメージ箇所）

おわりに

主伐後の再造林や下刈りなどの育林経費の大半が造林初期に要するコストとなっています。国有林としては、民有林では取組が困難な先駆的な作業方法、低コスト作業システムの提案など地域（現地）の実情に応じた取組を行っています。

こんにちは 森林官です!

上川南部森林管理署
富良野森林事務所
首席森林官 鹿俣 良悦



へそとスキーと ワインの街・ふらの

当森林事務所が所在する富良野市は、北海道のほぼ真ん中に位置していることから、へその街として全国に知られ、夏は「ラベンダーやドラマ」の国から「のロケ地巡り」など、国内外からの観光客で賑わっています。また、国際スキー連盟公認の富良野スキー場は、スキーワールドカップ、スノーボードワールドカップなどの国際大会が開催されたこともあり、世界中にその名を知られています。



富良野市街、十勝岳連峰を望む

富良野スキー場の大部分は国有林のレクリエーションの森に設定されている貸付地であることか

ら森林管理署との関わりも多く、スキー場に隣接する富良野西岳（1331メートル）の山開き、スキーシーズン前の安全祈願祭などでは、関係者とともに安全と無事故を祈願しています。



夏のスキー場は、散策コースにもなっている

富良野は、畑作と果樹栽培が盛んで特産品であるワインは、原料用ぶどうの生産、ワインの醸造から販売まで一元化されたシステムが確立されています。もう一つの特産品であるぶらのチーズをつまみながらぶらのワインで一杯…いかがですか。

森林事務所では…

現在、富良野森林事務所は、富良野担当区・山部担当区部内約10・6千

ヘクタールを管理しています。

管理区域のほとんどが水源かん養保安林及び富良野芦別道立自然公園に指定されていることから、森林の公益的機能の発揮、自然環境の維持、野生動物の保護などに重点を置きつつ、適切な管理・経営に努めています。



本署から応援を得ての境界管理

全道的に問題となっているエゾシカによる被害は富良野地方でも例外ではなく、富良野盆地を囲むようにシカ柵が張り巡らされています。林道・作業道など点検・巡視の際には、エゾシカを見かけないことが珍しいほど

個体数は増えていると感じます。

エゾシカが森林に与える影響について調査・把握することは重要であり、チェックシートを用いたエゾシカ簡易影響調査は森林事務所の日常業務の一つになっています。

その他、夏の間は各種請負・委託事業の監督・検査業務、林道・作業道等の維持・管理、国有林野と民地の境界管理、冬期間はスノーモービルに跨がり、現場まで移動し、スキーを履いての森林調査などを行っています。

地域との橋渡し役として

年間2百万に近い人が訪れる観光都市（富良野市）において、国有林のフィールドを提供する森林管理署と民間の橋渡し役となる森林事務所は、地域とのつながりが何よりも重要だと思えます。地域の諸行事などには積極的に参加し、国有林野のPRも忘れないよう進めています。



石狩地域森林ふれあい推進センター

今回は、当センターの活動フィールドの一つである野幌国有林で実施している「野幌自然環境モニタリング」を紹介いたします。

平成16年9月、台風18号が北海道に上陸し、野幌森林公園（約8割が国有林）においても、大規模な台風被害が発生し、早急な復旧・森林再生等の取組みが必要となりました。

被害を受けた「野幌の森」の再生目標を「百年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくり」とし、

- ①天然林被害地は自然の推移に委ねる
- ②人工林被害地は人手をかけ、自然林を再生させる
- ③森林再生活動の実施にあたっては、市民参加を積極的に進める

ことを主な内容とする「野幌森林再生プロジェクト」を策定し、具体の活動に取組んでいます。

さらに、プロジェクトにおける森林再生を目に見える形にするため、自然環境の変化の把握を目的に、学識経験者からなる「野幌自然環境モニタリング検討会」を設置し、森林植生、菌類、

歩行性甲虫、野生動物について、調査を行っています。調査の対象は

- ①森林再生活動地（植栽地）
- ②良好な自然林
- ③風倒木を搬出したが植栽していない箇所（半処理区）
- ④風倒木を搬出せず植栽もしていない箇所（未処理区）

の4つに区分し、モニタリングを継続実施しています。

※動物撮影については、野幌国有林の全域を網羅するよう12箇所に装置を設置（夏、秋）

【各調査の目的と結果】

○森林植生調査

樹木の成長量や下層植生を調査しています。

再生活動地における、植栽木は年々着実に伸長成長が増し、枝張りが広がりササの植生高を抜けてつあるのでササとの競争は考えなくても良い段階に入っています。



野幌自然環境モニタリング検討会の検討委員



野幌自然環境モニタリング現地検討会

○菌類相調査

森林生態系における菌類は分解者として機能し、森林の生育に深く関わっています。それぞれの調査地で見られる種の経年的な変動や箇所による違いを比較することとしています。再生活動地と良好な自然林では、確認種数の増減が見られたものの、確認種の出現頻度に著しい変化は見られなかったが、再生活動地では新種の確認が増えていきます。

○歩行性甲虫相調査

オサムシ等の歩行性甲虫は、環境の変化に最も敏感に反応する分類群の一つです。

ピットフォール（落とし穴）トラップによる捕獲調査を実施しています。総合的に見て、開放性の昆虫の割合が減少し、森林性の歩行性甲虫の割合が増加しています。

○野生動物相調査の評価

エゾシカの侵入やアライグマの増加は、森林生態系に及ぼす影響が懸念されていることから、自動撮影装置による調査を実施しています。

確認種数と確認種構成に大きな違いはなく生息するほ乳類に目立つ変化は確認されていません。

エゾタヌキは撮影頻度の増加が見られ、生息数の増加が推察されます。

特定外来種のアライグマは、撮影頻度は減少しているが在来種への影響など引き続き注視する必要があります。エゾシカの撮影頻度は今のところ低く、森林への影響はまだ少ないと思われます。

【今後に向けて】

これまでの調査結果からは、順調な森林再生の様子がうかがえます。

今後は各種貴重な調査データを基に森林管理ができるように、データベース化を進めたいと考えています。



各地からの便り



詳細は

森もりスクエア

検索



占冠地域森林整備推進協定を締結



【上川南部森林管理署】

7月30日、占冠村総合センターにおいて占冠村と上川南部森林管理署は「占冠地域森林整備推進協定」を締結し調印式を行いました。

この協定は、占冠村内の全村有林と全国有林の計5万1千ヘクタールを対象としています。

占冠村では林業経営基盤の強化や森林資源の循環利用を地域の課題とし、また、森林管理署では公益重視の管理経営の推進、林業の成長産業化への貢献等に取り組むとし、これらを踏まえて村と署は占冠地域の森林・林業の再生と地域振興を目的に連携した各種取組みを実施することとしています。また、村有林と国有林双方で整備の効率化が図られる森林については森林共同施業団地の設定を検討するとしています。

「カルデラの森」森林環境保全整備活動を村民が実施



【石狩森林管理署】

8月24日に、冷水峠にある赤井川村展望台前の赤井川国有林において、馬場村長を始め、岩井村議会議長や村民22名の参加で、3年目となる「カルデラの森」森林環境保全整備活動を実施しました。

ここは平成16年の台風により被害を受け、その後の復旧のため、カラマツを植栽した場所です。当時は展望台（平成20年完成）より赤井川村のカルデラ盆地が一望出来ましたが、木々が成長し眺望しづらくなってきたことやゴミの不要投棄などがあったため、赤井川村と「ふれあいの森」の森林整備等の協定を締結し整備しています。当日は、当署からも署長等も参加し、除伐作業とカラマツの枝打ち作業を実施しました。

「山の日」記念イベントを浜頓別で開催！！



【宗谷森林管理署】

8月11日、「山の日」に浜頓別町のウソタンナイ砂金採掘公園において、ウソタン砂金フェスティバルが開催され、川での砂金掘りやお宝探し、ロープを使った木登り体験、親子丸太切り競争のほか、宗谷総合振興局森林室主催の木工体験教室があり、宗谷森林管理署も協力しました。木工体験教室では、間伐材を使ったコースター、ミニチェア、ミニプランター、小物入れづくりが楽しめ、特にコースター、ミニチェアづくりに人気がありました。

木を使って工作する機会も少なくなっていますが、今後も各種イベントを通じて地域の自然、森林・林業の魅力をたくさんの方に伝えていきたいと思っております。

上川北部地区造林作業の軽労化・低コスト化に向けた技術研修会を開催



【上川北部森林管理署】

7月24日、下川町の総合福祉センター及び別国国有林において、当署、上川総合振興局北部森林室、下川町が連携し「上川北部地区造林作業の軽労化・低コスト化に向けた技術研修会」を開催しました。目的は、林業従事者の高齢化や減少に対応するため、造林作業の機械化等労働低減が急務であることを踏まえ、各機関の取組についての情報共有や意見交換を行うことです。当署より、「地域における造林作業の軽労化・低コスト化」、森林室から「小型機械による下刈作業の軽労化に向けた取組」、森林総合研究所からベースマシンにクラッシュを装着し実施した下刈作業試験結果についての報告があり、その後、現地で乗車型自走式草刈機による下刈作業の実演と意見交換を実施しました。

札幌水源の森づくり 2019

平成16年から始まったこのイベントは、今年で16回目を迎えました。

札幌市の中心部で、市民の皆さまに苗木をカミネツコンに植えてもらい、この木が定山溪の森ですくすくと育って、私たちの水道水を作っていることを知って感じていただくことを目的に札幌市と連携して行っています。

今年も、創成川公園で約200人の方々と苗木を作りました。会場には、苗木づくりのほか、札幌の森や水に関するパネルやクイズ、ボールペン作り、木の漢字合わせ、木棒（きぼう）づくりなどのブースがあり、多くの市民が訪れていました。

参加された方々は、思い思いのメッセージをカミネツコンに描いて、札幌の水源の森や未来の森林に思いを託していました。

(石狩地域森林ふれあい推進センター)



第70回 北海道植樹祭・育樹祭～つなげよう大切な森この先へ～

苫東・和みの森（苫小牧市）での森林づくり活動に参加しませんか？

日時：2019年10月19日（土）

10:00～14:00（雨天決行、荒天時中止）

場所：苫東・和みの森（苫小牧市）



10:00～10:25 (受付開始/9:30)	●アトラクション	式典会場	●ミニテント村 (催事・協賛行事) ～14:00	●月に一度は森づくり (こちらは別途参加費が必要です。 詳しくはとまとう・和みの森運営協議会のHPをご覧ください。) https://tomato-nagominomori.jimdo.com/
10:30～10:48	●式典			
11:10～12:00	●①植樹（※定員/400名 先着順）	苫東・和みの森		
	●②育樹（※定員/400名 先着順）	苫東・和みの森		

この行事に参加を希望される方は、必ず事前の申込みが必要です。

詳しくはホームページをご覧ください。

※木育フェスタ2019で検索

お問い合わせ先

北海道 水産林務部 森林環境局 森林活用課 木育グループ
(TEL 011-204-5515)



夏のお花畑も美しいですが、道内でも早い時期に紅葉がみられる美しい山です。

標高1,866メートル。この山に登る単独ルートはなく富良野岳から上木口力メットク山に延びる稜線にある山です。三峰山（さんぼうざん）の名前の由来は、三つの峰からなる山のためです。

十勝連峰の山々も秋の装いに衣替えです。

今月の表紙
三峰山（さんぼうざん）
十勝岳連峰

お知らせ

イベント情報カレンダー

北海道森林管理局では、北海道内の国有林等で開催される、森林・林業・木材産業のイベント情報をホームページ「イベント情報」で公開しております。ぜひ皆様でお出かけください。

なお、現地の状況等により内容を変更する場合がありますので、予めご承知をおください。



広報 「北の森林 国有林」9月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70番
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>